

国立病院機構熊本医療センター

No.186



# くまびょう NEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所  
国立病院機構熊本医療センター  
〒860-0008  
熊本市中央区二の丸1番5号  
TEL (096)353-6501(代)  
FAX (096)325-2519



## 熊本市災害医療福祉訓練 が行われました

平成10年より毎年行われている熊本市災害医療福祉訓練が10月27日に行われました。熊本地方を震源とするマグニチュード7.2、震度6弱の地震が発生し、熊本市内に大きな被害が生じ、倒壊した建物などにより被災した傷病者が多数当院に搬送されるという想定で行われました。

地震発生直後直ちに暫定対策本部が設置され、職員は自主参集しました。河野院長を本部長とした正式対策本部に引き継がれ、自主参集した230名の職員は本部長の指揮のもと、それぞれの部署に分かれ、傷病者のトリアージ、救護所診療、搬送、傷病者家族対応などを行いました。模擬傷病者は当院看護学生が担当し、リアルなメイクと迫真の演技で傷病者を演じてくれました。職員も本番さながらに真剣に訓練に取り組みました。

当院は災害拠点病院かつ救命救急センターであり、災害時には、通常診療時の数倍以上の傷病者が当院を受診されることになることが予想されます。今回の訓練が、万が一の時にきっと役に立つことと思います。

(救命・救急部医長 原田 正公)



### 基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、  
良質で安全な医療を目指します。

### 運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営



## 「みこころ病院」



### イエズスの聖心病院

院長 田代 篤信

みこころ病院の田代といいます。いつも国立病院機構熊本医療センターの各科の先生方には一方ならぬお世話になっております。おそらくすべての科でお世話になっていることと思います。特に救命救急センターには昼夜を問わず手のかかる大変な患者様を引き受けて頂き、適切な検査、治療をして頂きましてありがとうございます。私事ですが私の妻は4年前に国立病院で亡くなりました。当時は病院が建て替えをしている時期でまだ古い病棟でしたが、2週間ほど入院しておりました。短い期間ではありましたが、主治医の武本先生をはじめ、多くの先生方

や看護師さん、スタッフの方には本当にお世話になりました。そういう患者家族としての経験からも安心して患者様を紹介できる病院であると思っています。また各科の先生方にはがん終末期の患者様を始めいろんな患者様をご紹介いただいておりますので、みこころ病院がどんな病院であるか知って頂くためにも丁度良い機会ですので病院紹介をさせて頂きたいと思います。

みこころ病院は医療療養型65床、ホスピス22床の病院です。病院の歴史は古く、創立は明治22年(1889年)のことで、今年で123年目を迎えます。最初は露天生活者病人訪問看護から始まっています。今では普通に行なわれています訪問看護の走りと思います。明治28年無料診療所開設、明治40年聖心病院開設、昭和36年に現在のイエズスの聖心病院となりました。平成5年より熊本で最初のホスピスを始めてから来年で20年目となります。ホスピスではがん患者様の終末期緩和医療を行っています。医療療養病棟では慢性期でまだ療養が必要だという方を診ていますが、入院患者様は高齢者が多く平均年齢が85歳になります。病気を持ったお年寄りですので当然予後不良の方も多く、ホスピスではがん患者様やご家族の身体的、精神的な苦痛を軽減する医療を行っています。終末期を迎えられたがんではない高齢者に対しても同じような慢性型終末期医療というもの必要性を感じているところです。日本はすでに超高齢社会に突入しており、私などの団塊の世代が高齢者の仲間入りをしますとさらに高齢者は増えていき、今後医療費の増大やベッド数の不足が見込まれています。これからは在宅医療をさらに充実させていかなければと考えているところです。

## 第18回 国立病院機構熊本医療センター医学会の開催と演題募集のご案内

第18回国立病院機構熊本医療センター医学会が2013年1月19日(土)に国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センターにて開催されます。

例年通り病院全体の職種が参加し発表します。

開放型病院登録医の先生方にも是非ご発表頂きたく演題募集をさせていただきます。

応募方法は演題抄録をフロッピー、CDまたはUSBに入れて下記宛ご送付頂くか、e-mailにてご送付下さい。多数のご参加をお待ち致しております。

抄録提出締切日：2012年12月7日(金)

- 抄録の文字数は全体(演題名、所属、発表者、共同演者、本文)で600字以内にして下さい。
- 本文は【目的】【方法】【結果】【総括】、症例報告は【目的】【症例】【経過】【考察】にそって記述して下さい。
- 図表の使用はできません。半角カナは使用できません。
- 尚、発表は原則としてPCで、使用ソフトはパワーポイントで作成したものに限りです。
- 発表時間は6分、討論3分です。
- 参加費は無料です。

お問合せ・送付先：〒860-0008 熊本市中央区二の丸1-5

国立病院機構熊本医療センター医学会実行委員 臨床研究部長 芳賀 克夫  
TEL: 096-353-6501 FAX: 096-325-2519 E-mail: scott@kumamoto2.hosp.go.jp

# 外来紹介

## 精神科・脳神経センター・麻酔科

精神科外来ではうつ病をはじめとして、統合失調症や認知症、また最近増加してきている発達障害などの診断および治療を行っています。さらに自殺企図および自傷行為に対して、身体的対応が一段落したあとに精神的に介入することで、再発の防止や問題の解決にあたっております。待合室では金鐘山を望めるリラックスした環境で、治療を受けられる患者様の声を汲みとりながら、快く診察を受けられるよう心がけております。

最近の高齢化社会や、複雑化を続ける社会の中で、精神的問題をかかえる例が増加してきており、当科では院外の医療施設と密接に連携し、治療を行っていききたいと思っております。今後どうぞよろしくお願ひ致します。

(精神科外来看護師 古庄 知子)



精神科外来スタッフ

麻酔科外来は現在週2回の診察をおこなっています。内容としては、ペインクリニック、手術前麻酔相談、緩和ケア外来（月曜のみ）、眼瞼・顔面痙攣に対するボトックス療法（金曜午後のみ）の診察を主におこなっています。月曜日担当は宮崎直樹先生、金曜日は瀧賢一郎先生です。

ペインクリニックでは難治性疼痛、頭痛、急性期帯状疱疹および帯状疱疹後神経痛、腰下肢痛などいろいろな痛みに対してブロック療法を中心に治療をおこないます。最近抗凝固療法をうけておられる患者様も多く、来院時に神経ブロック療法がすぐに行えないことが増えてきました。休薬後ブロック療法をされたり休薬が難しい方でも痛みにも効果がある抗うつ薬、麻薬、漢方薬などを組み合わせた痛みに関する疼痛緩和治療をされています。また、急性の痛みで通常の鎮痛薬が効かず、慢性疼痛の状態になられ通院も長きにわたる患者様もおられますが、今後ご家族や本人の精神的安寧が得られるようできるかぎりサポートしていこうと心がけて医療の提供を行っています。どうぞよろしくお願ひ致します。

(麻酔科外来看護師 佐藤 美和子)



麻酔科外来スタッフ

脳神経センター外来は、脳神経外科と神経内科で構成されています。

脳神経外科では、主に手術をする可能性のある患者様を対象とし、頭部打撲、未破裂脳動脈瘤、脳腫瘍、もやもや病、正常圧水頭症、内頸動脈狭窄症などの診察を行っています。未破裂脳動脈瘤で手術の適応時やご本人が手術を希望される時は、脳動脈瘤の形状などを詳しく把握するために、造影MRIや3DCTを施行します。内頸動脈狭窄症の方には脳血流シンチなどの検査を施行し、手術適応であれば内頸動脈剥離術が施行されます。本院での内頸動脈剥離術は、内シャントを用いての手術で県下で本院だけです。また、くも膜下出血の術後の方や、脳出血で入院した方などの定期フォローも行なっています。

神経内科外来では、脳梗塞などの脳血管障害、パーキンソン病、多発性硬化症、脊髄小脳変性症、重症筋無力症などの神経難病、頭痛、めまいなどの機能性疾患、髄膜炎などの中枢神経感染症、てんかんと幅広く診察を行っています。耳性めまい、特発性顔面神経麻痺（ベル麻痺）は耳鼻科に、認知症は精神・神経科に診ていただくこともあります。患者様の症状に応じて、頸部血管エコー、テンシロンテスト、MRIやCT、脳波、神経伝導速度などの検査を行っています。

脳神経外来に来られる患者様で急性の脳梗塞の方などは、早期の治療開始が必要になるため、来院時に緊急性があるかを確認すること、また、急変も予測されるため、外来で待っておられる方に目配り、気配りをするなど心がけていきたいと思っております。どうぞ宜しくお願ひ致します。(脳神経センター外来看護師 濱部 優子)



脳神経センター外来スタッフ

## 2012 診療科紹介 (55)

### 糖尿病・内分泌内科



部長  
東 輝一朗

内分泌・代謝一般  
糖尿病、人間ドック

日本内科学会認定医  
日本内科学会指導医  
日本内分泌学会内分泌・代謝科専門医  
日本内分泌学会内分泌・代謝科指導医  
日本糖尿病学会専門医  
人間ドック健診認定医・専門医  
日本人間ドック研修関連施設指導医  
日本人間ドック健診情報管理指導士  
日本医師会認定産業医  
臨床研修指導医  
日本糖尿病協会療養指導医



部長  
豊永 哲至

糖尿病、内分泌・代謝  
動脈硬化症、人間ドック

日本内科学会認定医  
日本内科学会指導医  
日本糖尿病学会専門医  
日本糖尿病学会研修指導医  
人間ドック健診認定医  
日本医師会認定産業医  
臨床研修指導医  
熊本大学医学部臨床教授  
熊本大学医学部非常勤講師  
日本糖尿病協会療養指導医

### 診療内容と特色

糖尿病・内分泌内科は、糖尿病、脂質異常症、下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患および性腺疾患などを対象に診療を行っています。良質で安全な医療を心がけるとともに、地域連携の促進に努めています。

### 診療実績

平成23年度の新規外来患者は1,176名、入院患者数は366名でした。糖尿病の入院が最も多くなっています。

その内訳は、2型糖尿病206名（糖尿病ケトアシドーシス5名、高浸透圧高血糖症候群11名、低血糖昏睡19名を含む）妊娠糖尿病67名、1型糖尿病12名です。

昨年度は妊娠糖尿病の診断基準の変更に伴い前年度と比較し妊娠糖尿病が2倍に増加しましたが、今年度も妊娠糖尿病の増加傾向が続きました。

内分泌疾患では甲状腺疾患が多く、ほとんどは外来



医師  
橋本 章子

内分泌・代謝一般  
糖尿病、救急医療

日本内科学会認定医  
日本医師会認定産業医



医師  
信岡 謙太郎

内分泌・代謝、糖尿病

日本内科学会認定医

で治療を行いました。入院治療を行った主な内分泌疾患は、バセドウ病5名、非機能性副腎腫瘍4名、抗利尿ホルモン（ADH）不適合分泌症候群（SIADH）7名、副腎機能低下症1名、甲状腺機能低下症2名、原発性副甲状腺機能亢進症1名、亜急性甲状腺炎1名、下垂体機能低下症4名でした。

この他低ナトリウム血症11名、低カリウム血症9名でした。

### 教育研究

教育・研修施設として昭和63年日本内科学会認定教育施設、平成9年日本糖尿病学会認定教育施設、平成16年日本内分泌学会認定教育施設、平成21年日本人間ドック研修関連施設に認定されています。

### ご案内

平成12年より地域連携の一環として毎月第3木曜日に糖尿病の勉強会（三木会）を実施しています。この会への参加で日本医師会生涯教育講座1.0～1.5単位、日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位（2群）0.5単位を取得することができます。

糖尿病教育として2種類の糖尿病教室を運用しています。院外からの参加も受け付けています。一つは糖尿病患者会（ぎんなん会）との共催による季節ごとの糖尿病教室です。年に3回テーマをもうけて定期的に開催しており、この時同時に試食会（無料）を行っています。もう一つは毎週行なっている糖尿病教室（やさしい糖尿病教室）で、少人数を対象にしています。いずれの教室もチームで取り組んでおり、参加者とのコミュニケーションを大切にしながら楽しく学べるように心がけています。

平成24年9月「第4版わかりやすい糖尿病テキスト」を出版しました。タイトルが示すようにわかりやすく必要な情報が簡潔にまとめられており患者様の糖尿病に関する知識を深めるだけでなく、日常診療においても役立つ内容になっています。



## 熊本大学大学院生命科学研究部神経内科学分野教授 安東由喜雄先生の特別講演が行われました

去る11月1日午後7時より、当院研修センターホールにて、熊本大学大学院生命科学研究部神経内科学分野教授安東由喜雄先生の特別講演が行われました。

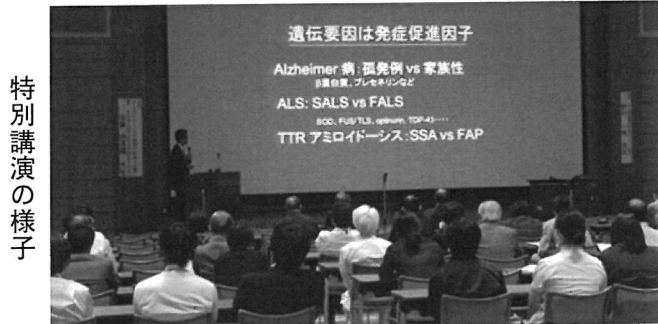
安東先生は、昭和58年熊本大学医学部のご卒業で、熊本大学第一内科にご入局後、平成8年から2年間スウェーデンのウメオ大学内科学教室客員教授を務められておられます。その後は熊本に戻られ、平成18年からは熊本大学大学院医学薬学研究部病態情報解析学教授を務められた後、今年の2月から神経内科学分野教

授にご就任されました。

今回のご講演は、「アミロイドーシスの最新の診断と治療」ということで、ご専門であるアミロイドーシスに関しまして、その歴史、基礎的な知識から、最新の知見や治療に至るまで、非常に広範囲にわたった内容でした。

講演を聴かれた方の中には、アミロイドーシスに馴染みのない方もおられたかもしれませんが、そのような方でもわかりやすい内容で、ご趣味である映画の話や色々なエピソード等も交えられ、大変興味深く拝聴することができました。中でも、この高齢化社会の中で、アミロイドーシスという病態の多方面における影響の大きさというものには驚くばかりで、今後ますます重要となる分野であるということを感じました。

また、ワクチン治療の今後の展望など、非常に期待を抱かせる内容もあり、神経疾患において、「解らない、治らない、けれど諦めない」時代から「治る」時代へ、まさに変遷してきたのだということを実感した1時間でした。  
(神経内科医長 田北 智裕)



特別講演の様子

## UCLA 消化器内科カウニッツ教授の研修を終えて

去る10月18日から21日までの4日間、当院ではUCLA消化器内科のカウニッツ教授をお迎えして、われわれ研修医は英語での研修を受けました。1年次研修医はPowerPointを用いた症例のプレゼンテーション、2年次研修医は病棟回診でのプレゼンテーションを行いました。院内では効果的なプレゼンテーションの仕方や、短期留学についての講義も拝聴しました。また、症例発表前日には芳賀先生のお宅へすき焼きパーティーにお招きしていただき、発表後はカウニッツ先生をお連れして歓迎会を開きました。院内での研修以外に、直接お話して見聞を深めることができ、盛りだくさんの内容でした。

今回、私たち1年目研修医は初めて英語でのプレゼンテーションを行いました。以前2年目の先生方が発表されるのを見学する機会にはありましたが、やはり自分たちで発表するのは想像以上に大変でした。私は日本語での症例発表の経験もなかったため、スライドの作り方さえままならない状況でした。指導医の先生方



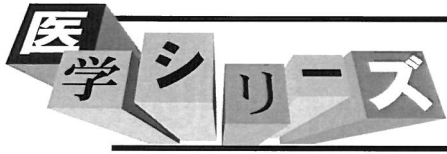
カウニッツ教授との記念撮影

に相談しながら出来上がった症例報告は、やり終えた満足感に甘んじて内容を深く吟味するに至りませんでした。カウニッツ教授は一人ひとり丁寧に指導してくださいました。今回このような貴重な機会を与えてくださったことに感謝するとともに、来年に向けてさらに精進していきたいと思ひます。

(1年次研修医 前田 詠理)



カウニッツ教授の研修の様子



No. 194

消化器内科 (No.15)

## 最近のトピックス

### 当院におけるCART (腹水濾過濃縮再静注法) について



消化器内科医長

中田 成紀

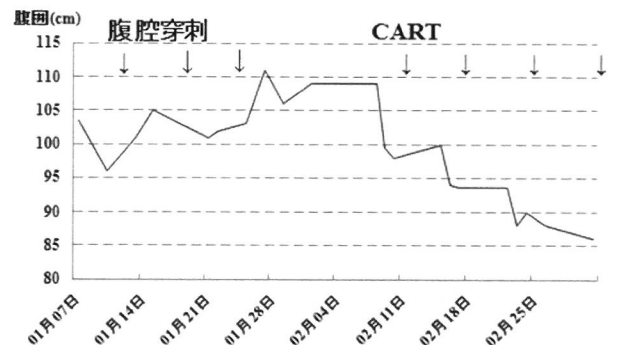
腹水は肝硬変やネフローゼ症候群などによる漏出性（非炎症性）腹水と、腹膜炎や腹腔内がんなどによる滲出性（炎症性）腹水に大別されます。食餌療法や利尿剤・アルブミン投与にも反応しない難治性腹水は腹部膨満感や呼吸困難感、食欲低下、便秘などに伴うQOLの低下を招きます。これまでは腹水ドレナージが主に行われてきましたが、一度に大量に腹水を抜くと急性腎不全やショックを起こすおそれがあること、また腹水中の蛋白を破棄していたため血漿蛋白が低下し、腹水の再貯留や浮腫が起りやすくなり急速に全身状態が悪化するなどの問題がありました。

腹水濾過濃縮再静注法（以下CART）は腹水を濾過・濃縮することにより得られた蛋白（アルブミン、グロブリン）を点滴静注する手技です。1981年より保険認可されていますが、濾過濃縮の技術に問題がありこれまでは肝性腹水に対してのみ一部の施設で行われてい

るにすぎませんでした。しかし腹水ドレナージによる即効性の症状緩和に加えて、アルブミン・グロブリンの補給、循環血漿量の増量など腹水ドレナージの欠点を解消する手技として、近年癌性腹水に対してのCARTが注目されています。

当院では2010年よりCARTを開始し、これまで20代から90代の50症例（男性24例、女性26例、がん症例31例、非がん症例19例）に計113回のCARTを施行してきました（2012年10月末現在）。CARTにより、腹水ドレナージだけでは腹満が改善しなかった患者様で速やかに腹満が解消しQOLが改善しております（図）。またアルブミン製剤投与に伴うウイルスや未知の病原体に感染するリスクもありません。CARTでは再静注時の発熱が問題となっておりましたが、2012年からは新方式の濾過濃縮法（KM-CART®）を導入することで更に多量の腹水を処理できるようになり、また副作用も軽減しています。

腹水のコントロールに難渋する症例がございましたら、ご紹介をよろしくお願い申し上げます。



## FAX紹介での時間予約制をご活用下さい

日頃、多くの患者様をご紹介頂きまして誠に有り難うございます。紹介患者様の待ち時間を短くするためにFAX紹介で時間予約ができます。月から金の日勤帯です。

当院のFAX紹介用紙に受診希望日を入れてお送り下さい。担当者がカルテを作成し希望日に時間予約を取りましてFAXにて返信致します。是非、FAX紹介での受信日の指定と時間予約制をご活用して頂き、患者様の待ち時間短縮にご協力下さい。よろしくお願い申し上げます。

FAXの紹介用紙は、電話（代表096-353-6501 内線2360）またはFAX（医事096-323-7601）でご請求頂きますと、直ちにFAXにてお送り致します。また、後ほど改めてFAX紹介用紙を郵送致します。

ホームページからもダウンロード出来ます。

国立病院機構熊本医療センターホームページアドレス <http://www.nho-kumamoto.jp/index.html>

(経営企画室長 織田 政継)

いま、国立病院機構  
熊本医療センターで  
何が研究されているか

シリーズ71回

## 「MRIによるSPACE法を用いた頸動脈プラーク評価」

放射線科 診療放射線技師 市川 和幸



### 【背景】

近年、頸動脈プラークの脆弱性を評価するためプラークイメージングが多く試みられ、その一つとしてMRIを用いたBlack Blood (BB) 法が盛んに報告されています。BB法は血管内腔を低信号にし、血管壁の評価を行う技法です。T1強調 (T1W) 画像で高信号を呈するプラーク内出血が、虚血イベントの発生に大きく関与していることが報告されており、BB法が個々の頸動脈病変のリスク評価のためのモダリティとして用いられています。

### 【目的・方法】

ボリュームにて画像が得られるSampling Perfection with Application optimized Contrast using different angle Evolutions (SPACE) 法は、頸動脈プラークの評価に広く応用されています。今回、我々はSPACE法について、ファントムを用い位相方向による変化、コントラスト及びBB効果の評価を行い、頸動脈プラークの評価に用いることが可能か撮像条件の検討を行いました。

### 【結果】

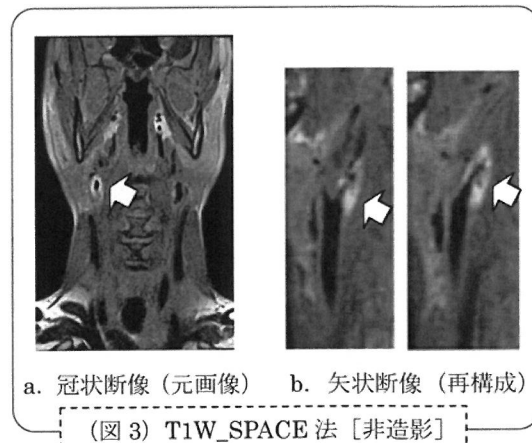
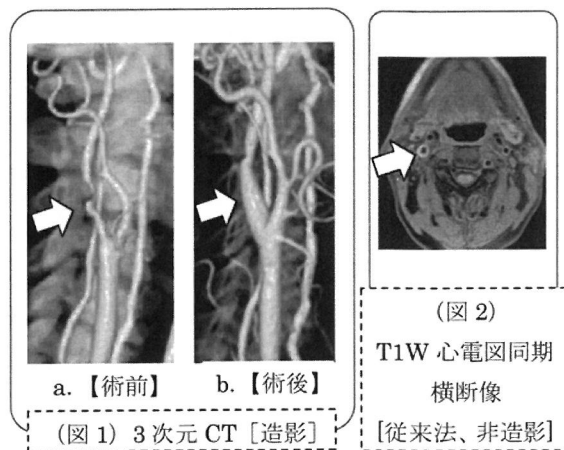
検討を行い設定した撮像条件は次の通りです。  
T1W\_SPACE法：(TR：450msec、TE：20msec、FOV：230mm、Voxel size：1.0×0.9×1.0mm、選択的周波数脂肪抑制、加算回数：3.4、Flip Angle mode：PD\_Var.、撮像方向：冠状断、位相方向：RL [右左]、撮像時間：4分7秒)

本研究において構築したT1W\_SPACE法が臨床に及ぼすメリットを3点挙げます。

- ① 1mm以下の分解能で撮像を行っており、再構成により頸動脈の分岐に合わせた多方向断面の観察が可能です。
- ② 従来は横断像における1断面において性状評価を行っていたが、連続する多数断面でプラークを観察できます。
- ③ 上記メリットを4分7秒という比較的短い撮像時間で実現できます。

### 【症例紹介】

右図は画像診断にて右内頸動脈狭窄を認め内腔に粥状プラークがあると診断され、頸動脈内膜剥離術 (CEA：carotid endarterectomy) を行った症例のCT画像及びMRI画像です。造影剤を投与し得られた3次元CT (図1) では、血管内腔の状況を把握でき高



度狭窄を確認できます。(図1a.)は術前の画像で、(図1b.)はCEA術後の画像です。(図2)は従来用いていた心電図同期によるT1W横断像であり、1断面を得るのに3分程度掛かります。T1W\_SPACE法(図3)では、血管内腔の壁を描出し内腔を狭窄するプラークの性状を把握することが出来ます。(図3a.)は冠状断で撮像を行ったT1W\_SPACE法による画像で、(図3b.)は再構成により血管の走行に合わせて作成した矢状断像です。狭窄及びプラーク描出部を矢印で示しています。T1W\_SPACE法にて高信号を示す部分が、出血を伴う粥状プラークと思われます。

### 【まとめ】

頸動脈プラークの評価のため、今回新たにT1W\_SPACE法の撮像条件を構築しました。本方法は、プラークの性状を把握でき、任意の多方向断面、多数断面で高分解能な画像の観察が可能であるため、頸動脈プラークの評価に有用と考えます。

## 研修医レポート

### 臨床研修医

1年次 <sup>はとの</sup>鳩野 <sup>たけあき</sup>威明



こんにちは、この春より研修を行っております鳩野威明と申します。研修が始まってすでに半年、経験豊かな先輩方と、気心の知った同期に囲まれ日々を送っております。当院は大学に比べ、各科の先生方とも親しみやすく、また、20人の同期とも毎日顔を合わせ、つまずいた時には相談に乗ってもらったりなど、研修を行っていく上での大きな心の支えになっています。

私は4月より循環器内科、呼吸器内科、外科とローテートを行い、現在は消化器内科でお世話になっております。半年間、実際の臨床を経験してきましたが、

まだまだ力不足で、指導医の先生・先輩方にはご迷惑をおかけしながら勉強させて頂いております。

現在消化器内科では、検査として、腹部エコー、上・下部消化管内視鏡、消化管造影を、治療としてイレウス管挿入や抗癌化学療法などを経験させて頂いております。特に腹部エコーは研修医が積極的に行える検査の1つです。実際にエコーを当てるようになって一ヶ月、当初に比べればある程度の要領は分かりかけてきたものの、指導医の先生が行われる姿を目の当たりにすると、その正確さ、時間、異常所見を見抜く目など、全てにおいて力量と経験の差を実感します。消化器内科の研修の残り一ヶ月、少しでも先輩方に近づけるよう努力してゆく所存です。

当院消化器内科では、私の祖母がお世話になっておりましたが、その祖母も今年6月に亡くなりました。その臨終の際にも主治医の先生への感謝の言葉を申しておりました。これまで、少なからず患者さんの死に立ち会う経験もいたしましたが、今後私もそのように患者さんの信頼を勝ち得るような医師を目指し、今後の研修を行ってゆきたいと思っております。

### 臨床研修医

1年次 <sup>ふかだ</sup>深田 <sup>りさ</sup>理沙



こんにちは。研修医1年目の深田理沙と申します。今年4月から研修医生活が始まり、早半年が過ぎました。

4月からの研修を振り返ると、研修医になって最初にお世話になったのが麻酔科でした。麻酔科では、術前診察・麻酔導入・術中管理・覚醒・術後診察と大きな流れから、個々の手技の流れまで少しずつ教わりながら学ぶことができました。麻酔中に起こる様々なことに、より早く気付き、迅速な対応をとることが重要で難しいと思っておりました。大まかな流れと簡単な術中対応、注意すべきことが身に付いたと自分でも実感がわくように指導して頂きました。

6月からの呼吸器内科。初めての病棟業務、指導医の岡本先生と7西病棟のナースの皆さんに1から教えて頂きました。やはり誤嚥性肺炎の患者さんをもつことが多かったのですが、何より抗生剤の種類を選択から

治療評価の仕方まで基本的なところを勉強できました。興味があった肺癌に関しては、初診時から診ることができた症例も経験できました。また、化学療法の勉強会に参加させていただき、現在の治療がどこまでいっているのか聴くことができました。

8月からは救急部で多くの症例を経験し、指導医の櫻井先生には手技をしっかりと経験させていただきました。CVカテーテルの挿入も苦手意識をなくすことができました。また、指導医の先生について症状から原因を探っていく過程がとても勉強になったと感じています。

10月からの消化器内科では、JDDWに参加させていただき、最先端では何が話題になっており、全国で多くの医師が何に力を注いでいるのか実際に知ることができて、とても刺激を受けました。また、尾上先生につきcommon diseaseをたくさん経験することができました。とりわけ早期胃がんに対するESDには何度も助手につけて頂けて、学生のころ近くで見られなかった手技を間近に見ることができました。

半年間とても充実した研修生活を送らせていただいております。この先もご迷惑をおかけすることも多いと思いますが、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



# 研修のご案内

## 第27回 症状・疾患別シリーズ (会員制)

[日本医師会生涯教育講座2.5単位認定]

日時▶平成24年12月1日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長:熊本内科病院 院長/熊本県医師会理事 伊津野 良治 先生

演題:「一般内科医にできる肺結核・非結核性抗酸菌症治療」

### 1. 救急外来を受診した肺抗酸菌症の検討

国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科部長

柏原 光介

### 2. 一般内科医にできる肺結核症治療

熊本内科病院呼吸器科

内藤 博道 先生

### 3. 一般内科医にできる非結核性抗酸菌症治療

国立病院機構熊本南病院内科医長

坂本 理 先生

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ(年会費10,000円)として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局

TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通) FAX 096-352-5025 (直通)

## 第75回 特別講演 (無料)

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成24年12月12日(木)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長:国立病院機構熊本医療センター 副院長 野村 一俊

「患者さんの視点にたった『私のカルテ』とガイドライン解説書」

熊本大学大学院生命科学研究部産科婦人科学教授

片淵 秀隆 先生

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター TEL 096-353-6501 (代表) 096-353-3515 (直通)

## 第167回 月曜会 (無料)

(内科症例検討会)

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成24年12月17日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

### 1. 胸部レントゲン読影

### 2. 持ち込み症例の検討

### 3. 症例検討「ドクターヘリ搬送で救命できた左主幹部心筋梗塞の一例」

国立病院機構熊本医療センター循環器内科

石井 正将

### 4. ミニレクチャー「消化管NET: Neuroendocrine tumor~自験例から」

国立病院機構熊本医療センター消化器内科

尾上 公浩

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL: 096-353-6501 (代表) FAX: 096-325-2519

## 第135回 三木会 (無料)

(糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会)

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

[日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]

日時▶平成24年12月20日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

### 1. 「ケトン体陰性のアシドーシスを来した高浸透圧高血糖症候群の一例」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

園田隆賀、久木山直貴、信岡謙太郎、橋本章子、高橋毅、豊永哲至、東輝一朗

### 2. 「甲状腺疾患のみかた」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

東輝一朗、園田隆賀、久木山直貴、信岡謙太郎、橋本章子、高橋毅、豊永哲至

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一朗 TEL 096-353-6501 (代表) 内線5705

# 2012年 研修日程表 12月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

12月	研修センターホール	研修室	その他
1日(土)	15:00~17:30 第27回 症状・疾患別シリーズ [日本医師会生涯教育講座2.5単位認定] 座長 熊本内科病院 院長/熊本県医師会理事 伊津野良治 「一般内科医にできる肺結核・非結核性抗酸菌症治療」 1. 救急外来を受診した肺抗酸菌症の検討 国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科部長 柏原 光介 2. 一般内科医にできる肺結核症治療 熊本内科病院呼吸器科 内藤 博道 3. 一般内科医にできる非結核性抗酸菌症治療 国立病院機構熊本南病院内科医長 坂本 理		
3日(月)			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
4日(火)			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1
5日(水)			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
6日(木)	7:30~ 8:15 二の丸モーニングセミナー 「外傷の初期治療」 国立病院機構熊本医療センター外科 松本 克孝		7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
7日(金)			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C1
8日(土)	14:00~16:00 第242回 滅菌消毒法講座 「中央材料部今昔物語り~中材とディスプレイの未来はかくありたい~」 福岡大学病院看護部長 坂本 眞美		
10日(月)			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
11日(火)			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~17:30 外科術前症例検討会 C1 19:00~21:00 泌尿器科・放射線科合同プログラム C1
12日(水)	19:00~20:30 第75回 特別講演 [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] 「患者さんの視点にたった『私のカルテ』とガイドライン解説書」 熊本大学大学院生命科学研究部産科婦人科学教授 片瀨 秀隆		7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
13日(木)	7:30~ 8:15 二の丸モーニングセミナー 「泌尿器科の救急疾患」 国立病院機構熊本医療センター泌尿器科医長 瀬下 博志		7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
14日(金)			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C1
15日(土)	13:00~17:00 公開肝臓病教室 「もっと知りたい肝臓の話」		
17日(月)	19:00~20:30 第167回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]		7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
18日(火)			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1
19日(水)			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
20日(木)	7:30~ 8:15 二の丸モーニングセミナー 「形成外科の救急疾患」 国立病院機構熊本医療センター形成外科医長 大島 秀男	19:00~20:45 第135回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]	7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
21日(金)			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C1
25日(火)			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1
26日(水)			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
27日(木)	7:30~ 8:15 二の丸モーニングセミナー 「耳鼻咽喉科の救急疾患」 国立病院機構熊本医療センター耳鼻咽喉科医長 上村 尚樹		7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
28日(金)			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C1

研1~3 2階研修室1~3 C1・2 3階カンファレンスルーム1・2 5西 5階西病棟 6東 6階東病棟 6西 6階西病棟 6北 6階北病棟 消 消化器病センター読影室 手 手術室  
※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ (<http://www.nho-kumamoto.jp/index.html>) をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501 (代) 内線2630 096-353-3515 (直通)